バーナード先生のこと

―この拙文を先生の靈に捧ぐ―

山本一清

◎

私が、昨年、文部省から留學の命令を受けたとき、「ヤーキースへ行かう」と決心した動機の一つは、たしかに「バーナード先生に會ひたい」と思つたからでした。バーナードの名は天文好きな者には誰でも馴染の名です。「バーナードの發見」、「バーナードの觀測」、こうした事件は、づいぶん以前から引き續いて、今日も尙行はれてゐることを、世界中の天文家は皆知つてゐました。バーナードの名は現在生きてゐる人の名でありながら、私は、若い時、木星第五衛星の發見されたことや、多くの彗星が彼れの名で發見されたことを、書物で讀んだのを思つて見ると、バーナードといふ名は、ケプレルやニウトンやブラドレイやハーシエル等の名と同じく、クラシックな名であるやうにも響きました。「ヤーキースへ行けばバーナードに會へるのだ。」この心が私をウイリアムス・ベーへ引きつけました。

◎

大正十一年十月十三日は私が始めてバーナード先生と手を握り合つた日でした。此の日の夕暮、ベーの驛でフロスト臺長に迎えられ、すぐ自働車で、宿ときめられたヴンビースブルック教授の宅に案内され、そして食後、同教授の案内で天文臺へ顏を出しました。其の時、空は曇りで誰も觀測をしてゐませんでしたから、フロスト、リー、ストルフエの諸氏は皆、圖書室へ來て、私と初對面の挨拶をしました。挨拶が一しきり濟んで、一寸、出たらめの話が人々の口から出始めましたが、私は何だか尙一つ物足りない感じがしてゐました。すると、奥まつた室から一人の大きな白髮の老翁が、一くせある歩き方をしながら、私共の話し合つてゐる室にやつて來ましたので、フロスト臺長は、すぐ「バーナード教授を紹介します。」「ミスタ・ヤマモトです」と紹介してくれられたので、思はず私は「ハツ」としましたが、早速、手を握り合ひました。

バーナードの肖像は、今までに、天文の書物などで二三度見たことはありますが、此の夕、御目にかゝつた印象は、少々豫想を裏切つてゐました。實際觀測上には今尙非常に活躍してゐられる先生のことであるから、(たとひ、年は取つて居

られても、)元氣は大丈夫だろうと思つてゐましたのに、始めて見た感じは、「何となく弱々しい老爺だ」といふのでした。

始めは、先生は無口でした。フロスト臺長とリー氏とが一番のおしやべりで、いろ〳〵と日本の事などを私にきゝました。ところが暫くして、ふと話の糸口が出來たのに調子づいたバーナード先生は、急に、樣々な話題をならべられました。其の夕のことは、詳しくは勿論覺えてゐませんが、一戸直藏氏のことや、山崎正光氏のことや、「東京天文臺には六吋の寫眞玉を持つてゐますね」といつたやうなことを話されたのは確かです。(其の時、私を、東京から來た者と思つて居られたらしくありました)

バーナード先生に御目にかゝつて、「物足りない」心地は去つてしまひました。

◎

翌日からは、毎日、戸外でか、天文臺の廊下でか、私はバーナード先生を見ない日はありませんでした。まだ二三日の間は、萬事不案内でもあり、特別な用事もないので、先生の室を訪ねるやうな事はありませんでしたけれど、「グドモーニング」や「ハウデウユーデウ」などを言ひかはしてゐる中に段々と親しみを增して來ました。

◎

アメリカ人に似合はず、バーナード先生は顏面の表情に乏しい人でした。それで、只、見てゐると、不愛嬌な顏付のやうではありましたけれど、其の代り、手振り足ぶりが、中々巧みに顏面表情の代理をつとめてゐました。毎朝の「グドモーニング」にしても、其の他の挨拶にしても、常に、口と一しよに、片手をひよいと擧げて、小供のやうな無邪言な挨拶ぶりをせられました。——聲は、いつの時でも、余り大聲でありませんでしたけれど。

◎

もの靜かな、しかし全く無邪氣な、小兒のやうな心の持ち主で、(自分には子が無かつた代りに、)總ての人を息子や娘のやうに、愛せずには置かれないやうな、柔らかな人でした。先生の目から見れば、會ふ人すべてが慕しいのであつたらしいです。

◎

アメリカでは、今日、自働車に乘せて野外を案内するのが客をもてなす最も氣のきいた方法となつてゐます。ヤーキースの人々の中で、最も早く私を自働車に乘せて、ジネヴ湖岸のフォンタナあたりまで連れて往つて下さつたのはバーナー

ド先生で、それは十月十九日でした。

◇

また、アメリカでは、近所に新しく引越して來た人があれば、其の新來者が、隣り近所へ挨拶にまはるのではなく、却つて、隣人の方から新來者を訪問して、歡迎の意を表するのが最も丁寧な習慣になつてゐます。私共がベー村に着いて第一日曜の午後、誰よりも眞先きに訪ねて來た下さつたのはバーナード先生でした。

◇

其の答禮に、私共夫婦は或る日曜の午後、バーナード先生の御宅を訪ねました。恰も其の時、先生の姪のミス・カルヴートは不在でしたが、先生は私共の訪問を非常に喜ばれ、氣の毒のやうな弱々しい身體を働かせて、椅子をすゝめ、爐の火をもやし、サイダーをすゝめ、繪本や寫眞を見せ、日本のものを見せ、蓄音器をきかせ、それは〳〵御自身で目のまはるやうな接待ぶりで、こちらは全く恐縮しました。それに、斷へず新しい話題を持ち出され、私共は「もう御暇申して歸つて行きたい」と思つて、もぢ〳〵しながら、一瞬の隙もない應接ぶりに、たう〳〵一時間餘りも長居をしましたが、歸りがけに、私が、ふと、「黑ん坊の歌が面白い」と口走つたのを

きいて、書架から二三册の黑ん坊の歌の書物を出して來て、「是非、持つて行つて、御讀みなさい。すんだら又別のを上げませう」といつて貸して下さつたのでした。　—此の日から、私は全く先生を、「おぢいさん!!」と呼んで、毎日其の膝に抱かれてゐたいやうな氣になりました。

◇

晝の間のバーナード先生と、夜のバーナード先生とは全く別人のやうです。晝の間は、いかにも、老い衰へた身體を、危く其の研究室に運んで、あへぎ〳〵、ペンを持つといふ有樣のやうです。ところが、日が暮れて、空に星が輝き始めると、先生は、甲斐〳〵しく觀測服を着け、厚い防寒外套を着込み、丈夫な鳥打帽で頭をはちまきし、足には重い防寒長靴をはき、恰も、若者が戰場に出かけるやうな武裝姿で望遠鏡室に入つて行かれます。途中に誰かがうろ〳〵して邪魔でもするならば、蹴飛して行きさうな氣配です。

◇

星が見えれば、先生は元氣なのです。先生は全く星の友達です。其の無二の友達である星が見えないから、晝の間は弱つてゐられるのです。夜になれば勇氣百倍となられます。まるで、うそのやうな變り方です。それで、若し夜の空が曇つ

て、星が見えないこなれば、先生はそれは〳〵みじめなものです。自分の室に腰を下して、力なく机によりかゝり、不熱心に本を讀んでゐられます。そして二十分に一回ぐらゐは戸外に出て、雲か晴れないかを見られます。曇りが三日も續くときは、先生は晝でも溜息をついて、うん〳〵こうなられます。隣室の連中は「バーナード先生がうめいてゐる」こいつてひやかしますが、先生は相變らずです。

かういふ風に、先生は全く本能的に星が好きなのです。ですから、都合よく空が晴れてさへ居れば、望遠鏡室に於ける先生の愉快さ振りは如何なものかを想像して下さい。

◎

先生の挨拶は誰に向つても、朝夕の區別なく

「グド・イヴニング」

こいふ夜の挨拶でした。之れなぞは、先生がねてもさめても星のことばかり考へてゐられた面白い證據です。先生には此の世界に晝が無くて、いつまでも〳〵、夜の世界であつたら好かつたのでせう。

◎

先生の觀測帳にかきつけられる文字は有名なものでした。「ヱ、、うるさい」こ言つた風のなぐり書きで、一行〳〵も決して揃つてありません。そしてページの終りに近づく程、文字は大きくなり、亂暴になるのです。翌朝、之れが、先生御自身にも讀めないので、ミス・カルヴードが、いつも此の難文字の讀み役でありました。

◎

バーナード先生は、週に二回、四十吋の大望遠鏡を用ゐて星の測微觀測をせられるのが例でありましたが、私は或る夜此の種の觀測をやつてゐられる先生の觀測ぶりを見に行つたことがあります。するこ、先生は、暗黑な室の中で、まるで相撲でも取つてゐるやうな息づかいをしながら、何時までも休まないで、測微ネヂをねぢつてゐられるのです。

四十吋の順番でない夜は、ブルース寫眞望遠鏡室で、銀河の長時間撮影をせられるのです。之れも人の知る通り、ずいぶん怠屈な仕事ですが、先生は一向御かまひなく、大きな聲で歌なぞ歌ひながら、終夜、望遠鏡を繰つてゐられます。

べーは暑さも寒さも非常にひどい所です。殊に冬二月三月頃の寒さは、華氏〇度以下十度ぐらゐに下ることも珍らしくは無いのですが、先生は一向平氣で、晴れてさへ居れば觀測は止められませんでした。

◎

先生は天文家としての生涯も長く、前後四十ケ年にわたりあらゆる種類の觀測をせられました。實に先生の多方面な觀測は學界の一の名物でありました。試みに米國の人名辭典を見ますと、先生の頁に

眼視的及寫眞的天文學。星團、視差、星團變光星、彗星、暗黑星雲、極光、銀河、對日照、衞星、遊星、小遊星、

といふ專門事項が書いてあります。實に天文學全般にわたると言つて宜しい。或る人が「バーナード氏は太陽の外は何でも觀測した」と言ひました。なるほど、太陽の觀測だけは先生が手を付けなかつたと言へませう。しかし、それでも日食觀測には三四回も遠征してゐられ、コロナの寫眞を撮られたことはあります。又、平常の太陽としても、先生は全く興味を持たれなかつたのではなく、例へば、時々、四十吋のドームに入つて、他の人々が分光太陽寫眞を撮つてゐるのを視られることはありました。

◎

先生は勿論キリスト教を信じてゐられました。教會や日曜學校に度々寄附金をしてゐられました。しかし、毎日曜の禮拜式には餘り出席せられなかつたやうです。そして、日曜でも午前中は天文臺の自己の研究室で研究をしてゐられました

之れは米國人としては珍らしことです。しかし、星と其の研究のみが大好きな先生としては決して、これは無理なことではなかつたのでせう。

◎

バーナード先生は美しい草花を見て樂しまれるのが、唯一の娯樂でありました。それで先生は宅の周圍の庭園には、いつも赤や白の花が咲いてゐて、御主人ばかりでなく、よその人々をも喜ばせました。

また、先生は音樂が好きでした。御自身では樂器をプレーせられませんでしたけれど、宅には立派な蓄音機を備へ、すぐれたレコードを數多く持つて居られて、宅に獨り居られるときなど、之れをならして樂しんでゐられました。

◎

先生は、日頃、「アジア」といふ雜誌と、「南カリフオルニア」といふ雜誌とを愛讀してゐられました。先生がカリフオルニアを愛せられたのは、若い頃をリク天文臺で過されたことによるのでせう。東洋に興味を持たれた理由は私は知りません。日本へは、一九〇一年、スマトラの日食觀測からの歸りに、長崎に立ち寄られたことがあるばかりで、餘り精しい事は知られませんでしたが、一戸氏から少しは日本の事情を

きかれたらしいです。

◇

現代の天文學者の中で、バーナード先生は、何と言つても變り者でした。第一、理屈に走らないで、實地觀測を主としてやられたこと。第二、學者臭がなくて、一見、素人のやうな氣分を持つてゐられたこと。此の二つは殊に著しいものでした。是れ要するに、始め、天文家としての立身が正當の順序で學校教育を受けられたのでなく、たゞ「星を觀るのが好き」といふ單純な性質から來たのであるによるのです。從つて、先生の觀測は皆、卽興的であつて、決して學究的な、秩序や組織があつてのことではありません。最後まで、「たゞ、星を眺めて居たい」といふ無邪氣一天張りで其の天文家としての生涯を終始せられたのであります。

◇

故に其の臨終は、殊に、いぢらしいものでした。先生は昨年の十二月中旬までは、例の通り活潑に觀測をつづけて居られましたが、年末の二十七日頃になつて、急に床に就かれました。——今から思ひ出せば、二十五日のクリスマスの祝ひ日に、恒例によつて天文臺の者は皆家族打揃つてフロスト臺長宅に集り「メリー・クリスマス!!」の挨拶を交換し、樂しい贈り物の贈答をしました。其の時、バーナード先生も其の席に見えてゐました。先生は入口に近い偶の椅子に腰をかけて、つまらなさそうな顏付をして、他の人々の打ち興じてゐるのを見てゐられましたが、先生の顏の表情は、前にも述べた如く、何れかと言へば、不活潑なので、其の日、私は別に何とも思つてゐませんでしたが、やはり今にして思へば、既に元氣が平生の如くではなかつたのかも知れません。

◇

私は年末の二十五日から三十一日まで、東部へ旅行をしました。そして歸村して來た夜、バーナード先生が病氣で床に就いてゐられると聞いて、少なからず驚きました。四十吋望遠鏡のプログラムが變更されたのを見ると、臺長始め、多くの人々は先生の病氣が輕いものではないと思つたのでせう。それだけ私は驚きました。

先生の病氣ときいて、自身のことのやうに、皆は心配しました。そして全快を祈つたのでしたが、折柄、嚴寒の候ではあり、病勢ははかゞしくありませんでした。ミス・カルヴードに幾度きいても、「相變らずです」といふ返事を言はれて誰も皆、暗い心にならざるを得ませんでした。

◇

病床にあつても、バーナード先生自らは回復するものと覺悟して、決して失望してゐられなかつたやうです。そして、少し氣分の好い晩などは、病室の窓を開いて、ガラス越しに星の光を眺めて、自らを慰めてゐられたやうです。一月十三日の早朝、金星が月に掩はれる現象が、べーから見えましたが其の時など、先生ば枕頭の時計で、ねてゐなから此の珍らしい現象を觀測し、尙、ミス・カルヴートを呼び起して、見せたりせられたさうです。

◇

一月の下旬に私が病床を見舞つた頃は、病勢が大に進んで一見した私も大變に失望しました。私の顏を見て、先生はしつかり私の手を握りしめ、「大に弱りました」と、いつになく悲觀したことを言はれましたが、私は胸が一ぱいで、返事の言葉を知りませんでした。――これが私には最終の挨拶となつたのでした。

◇

一月の末、病勢大に非と知れました時、フロスト臺長は、いよ〳〵決心して、病床を見舞ひ、遺言を聞かうとせられました。其の時、バーナード先生は大に不滿足で、「遺言などは無い」と言はれたさうです。實は此の時でさへも、先生は全快して、觀測する日の來らんことを望んでゐられたのですから遺言など促がされるのは不本意であつたのでせう。

◇

二月に入つて、先生の病勢は急轉急下でした。ミス・カルヴートの手一つだけでは看護が不充分といふので、看護婦が增員され、又、醫者もシカゴから交り〳〵にやつて來ました二月五日の夜はリー氏が先生の枕頭に付添つてゐられましたが、翌朝になつて、醫者が全く匙を投げて、歸つて行きましたので、皆々今更の如く驚愕しました。其の日は空も泣くやうな曇り空でした。天文臺の人々は、それ〴〵、自分の室には居ますが、今や大木が目前に倒れんとするのを豫想して、誰も落付いた研究は出來ませんでした。臺長は天文臺とバーナード先生の宅との間を、杖に賴りながら、幾度も〳〵往復して、何事か深く考へつゞけてゐました。

其の夜は、天文臺の空氣は一層重くありました。空は曇りで、觀測は誰もせず、それにオフィスの人々や、村の二三人の人々も詰めかけて來てゐました。私も其の時は、室の机にもたれたまゝ、いろんな空想にふけつてゐるより仕方がありませんでした。今夜はヴンビー教授が先生の枕元にゐられました。

午後八時半頃、一團の人々が、ザワ〳〵と亂れ足で、バーナード先生の宅の方から天文臺に入つて來ました。そして、オフィスにゐるリー夫人の所へ入つて行きました。そして、間もなく、天文臺の掲示板には

「昇天」(Ad Astra)

といふ黑枠の掲示が張り出されました。

それから、牧師が來る。電報が飛ぶ。夜更けるまで、天文臺は人騷がしくありました。

◇

臺長フロスト氏が世界中の天文學者に送つた通知狀は左の通りのものでした。

拜啓、

殘念にも、バーナード教授が昨夜八時死去せられたことを御報らせ致します。教授の病狀は急に惡しくなりまして、重要な機能が多く働かなくなつてゐました。一週間以前までは、醫師等は望みを持つてゐまして、病院へ連れて行つて、專門の手術をする筈でありましたのに、遂に、心臟の故障のため之れが不可能になりました。

葬式は今日當天文臺の圓堂で行はれ、遺骸は木曜日ナシヴィルで埋葬されます。

教授は眞理の探求に献身する驚くべき模範を吾々に示しました。吾々、御同樣に、教授をよく知る者は、教授の知能及情緒の偉大さの記憶を永遠に持つて居たいと思ひます。

ヤーキース天文臺　E Bフロスト(署名)

一九二三年二月七日

殿

◇

葬式は翌七日の午後二時、天文臺の中央圓堂(マタンダ)で行はれました。急であつたので、距たつた所からは誰も會葬者は來ませんでした。只、マデソンやシカゴから、先生々前の呢懇な天文家が數人馳けつけたといふだけで、其のほかは、皆ベー村の人々ばかりでした。此等の人々は、皆平生からバーナード先生に愛せられ、又は、仲好しの友であつた人々です。こうした人々に圍まれて、ごく飾り氣のない葬が營まれたのは、却つて先生の靈を喜ばせたかも知れません。こんな氣分の式で、何一つ固くるしい儀式は無く、たゞ、牧師の祈りと簡單な說教があり、フロスト臺長の弔詞演說がありましただけです。しかし、牧師もフロスト氏も、共に、先生の生前の學術的功績や一生涯の履歷めいたことは言はれませんでした。大

ていの事は、村の人々が皆知つてゐます。又、そんな事を述べるのは、式の空氣を却つて殺風景にして了ひます。それよりも、「なつかしい、あの、村のおぢいさんが死んだ。深切な人なつこい、柔和な、あのおぢいさんが。」

といつた風の氣分が、此の日此の偉人を野邊送りするには最もふさはしいのでした。司會者は之れを好く知つてゐました。リー氏とエッツエン氏と、ミス・ランニングと三人が合唱で生前の先生の好きであつた歌を歌ひました。勿論、大した歌い手ではないのですが、それよりも、此の人々が、また、天文臺の内輪の人であるといふことが嬉しいことでした。こうして、生前は、世界の人類のチャンピオンとして、宇宙構造の發見をした此の偉人も、最後には、やはり、その人一人にたち歸り、日頃、愛せられた隣人たちにのみ見送られて、死んで往つて了ひました。「星を見たい」といふ、燃えるやうな摯着の熱情を抱いたまゝで。

◇

先生の遺骸をベーの停車場に見送つて、宅へ歸つて來る自働車の中で、サリヴン夫人が言はるゝには

「ミスタ・バーナードが死なれて、私は人一倍の淋しみを覺えます。思へば此の天文臺にミスタ・バーナードと私共とが暮したのは二十年も長い間でした。私は主人と一所に、始めて此の天文臺に雇はれて來た時のことを思ひ出します。ミスタ・バーナードは人々の中で一ばん親切に新來者を世話してくれました。主人のサリヴンが始めて四十吋のドームの助手として働いた其の晩は、ミスタ・バーナードの觀測番であつたと、主人は言つてゐました。私共は皆さん御承知の通り、今あの小さい新しい家を建てゝゐます。もう數週の中に出來上ります。家が出來上つたら、私共はミスタ・バーナードを第一番に招いて、其の新しい食堂で御馳走をしやうと思つてゐたのに。」

同じ車の中で、この話をきいてゐた者は皆、夫人の此の心を充分に同情しました。

◇

バーナード先生に教へを乞ふため、はる〳〵、日本からやつて來た私は、遂に先生の野邊送りをしに來たことになつたのでした。しかし、先生の生前、其れは短かい日數であつたけれど、私は先生と、一つ天文臺で起居を共にし、日夜、愛せられたことを無上の光榮に思ひます。先生が死なれたことも、また思ひ換へて、私が日本からわざ〳〵來るのを待つて居て下さつたのだと考へて見れば、私が其の先生の葬式に列

することが出來たのは、特別な光榮であつたとも思はれます——死なれて後、先生の愛用せられたブルース機は、他人ならず、全く私に使用することを許されたのは、之れこそは「深い緣があればこそ」と思はざる得ませんでした。ヤーキースを立つた私は、リク天文臺を訪れ、其の後、又、ウィルソン山を訪れました。そのリクでも、ウィルソン山でも、バーナード先生は嘗て偉大なる天體研究をせられたのであり、現に先生のかたみとも言ふべきものが、兩天文臺に殘つてゐるのを親しく見ました。私の心にはバーナード先生が何時までも付き添つてゐて下さるやうに思はれます。

（一九二三、八、二九。パサデナ市にて）

御知らせ

此頃は、毎日、東京横濱の大震災について、日本から來る新聞電報におびえ、心配して居ります。大庭夫人を始め、横濱に居られた會員の方々の運命は如何なのでせう。又、東京天文臺の有樣は？

會員の皆樣。各地に於ける震災の模樣を知らせて下さるやう願ひます。

私は、豫定の如く、去る七月から當地に居り、太陽の研究をして居ります。昨日まで一週間あまり、日食觀測のため、カタリナ島へ往つて居りました。（日食は曇られました。）

來る十月末に當地を立つてハーバード大學天文臺に移ります。卽ち其の宛名は

Harvard College Observatory, Cambridge,
Massachusetts, U. S. A.

そこに半年ばかり變光星を研究して、後、歐洲に渡ります。先は右。

一九二三、九、一二　加州パサデナ市ウィルソン山天文臺にて

山本一清

會員皆々樣